チャイナ　インサイト　第 33 回　間もなくベール脱ぐ JIDU、減益でも自動車分野好調のバイドゥ

上海莱弥信息咨询有限公司(インサイツ)　東京事務所　顧問　有田直矢

■減益だが自動車分野売上は 20 億元積み増し

バイドゥは先日、2022 年 3 月 31 日までの第一四半期決算を発表、売上高は前年同期比 1%増の 284.11 億元となったが、最終利益は同 10%減の 38.79 億元となった。この減益に対して、市場は敏感に反応したものの、同社ファウンダーである李彦宏董事長兼 CEO は、自動車分野の事業に対する詳細を開陳、関連事業の売上が累計 100 億元に達しており、この第一四半期だけでも 20 億元増えたことなどを明らかにした。

バイドゥの自動車分野事業は Apollo 自動運転プラットフォーム、通称 ASD と呼ばれる。羅戎 CFO も「ADS の売り上げが現在、徐々にだが上昇しており、軌道に乗りつつあることを喜ばしく思う」とコメント、ADS ソリューションの売上累計が 100 億元を突破、この数値は前期まで 80 億元だったから、第一四半期で 20 億元積み増したことになる。

ADS の具体についても、バイドゥも出資する中国新興の威馬(WM)に対して、自動バレーパーキング、いわゆる AVP を供給している「W6」などが挙げられる他、AVP については、長城汽車の SUV ブランド「ハヴァル」の「神獣」や、広汽集団の新エネルギー車(NEV)部門「埃安(Aion)」にも供給、また WM に対してはアポロ・ナビゲーション・パイロット、いわゆる ANP の供給を開始した。

現在、より多くの OEM がバイドゥの自動運転ソリューションを採用しつつあるともいう。すでに複数社と商談を行っており、中国民間 OEM 大手の BYD や、国有 OEM 大手の東風汽車とも協業を発表、各社がバイドゥ ADS ソリューションを積極的に採用検討しているという。

■JIDU ROBODAY を前にさらなる情報公開

この ADS ソリューションを凝縮して注入しようとしているのが、民間 OEM 大手の吉利(Geely)と合弁展開している新興 OEM、集度汽車(JIDU)だ。JIDU は 2022 年 6 月 8 日、JIDU ROBODAY の開催を発表、初のコンセプトモデル「ROBO-01」の詳細を公表する予定(イメージ広告参照。バイドゥらしく、メタバース上で開催、WeChat 等各種ツールでライブ配信予定。出典：JIDU)だが、それに先んじて今回、李 CEO が JIDU のさらなる詳細を発表した。